

**授業概要**

「他者たちのアメリカ文学/文化」といった大きな枠組みに従い、以下のいくつかのテーマで文学/映画を分析してゆく。

人種・階級・性差という言い方があるが、これまでの西洋文学史はいわゆる「上流階級の白人の男性たち」の帝国主義のもとに構築されたものである。この授業では、支配階級であった「上流階級の白人の男性たち」の対極におかれ、迫害されてきた黒人、女性、労働者などについて考えてゆく。いわゆる「他者たちのアメリカ文学」というテーマで授業を進めてゆくことになるだろう。従来の単調な文学のとらえ方でなく、現代思想、カルチュラル・スタディーズをまじえた新しい文学論を展開してゆきたい。

**授業計画**

第1回	導入・他者とはいかなる存在か
第2回	侵入してくる他者・最後の銃弾と先住民という他者
第3回	攻撃される国家・手・外国恐怖・ゾンビ
第4回	生きる屍の文学/文化史・小泉八雲を読む
第5回	文学/映画における身体障害者のイメージ(1)・『クリスマス・キャロル』
第6回	文学/映画における身体障害者のイメージ(2)・『緋文字』『チャタレイ婦人の恋人』
第7回	マイケル・ジャクソンとエレファント・マン
第8回	犯罪者という他者・フランケンシュタインの怪物と生来性犯罪者のイメージ
第9回	アメリカ文化における女性嫌いの発生・『シル・バラード』
第10回	冷戦と宇宙からの他者・アメリカはいかに他者をモンスターにしてきたか
第11回	同性愛者とエイズ恐怖・『フィラデルフィア』『そしてエイズは蔓延した』
第12回	父親という他者・『ジミー』
第13回	同時多発テロとその文学/映画
第14回	デジタルかアナログか 読書終焉の世界・『華氏 416 度』『タイムマシン』
第15回	まとめ アメリカにおいて他者像がいかに捏造されたのか

**履修上の注意**

言うまでもなく授業中の私語、睡眠は許されない。マナーを尊重して楽しい授業にしていきたいので、積極的な参加を望みたい。大量の資料を配布するのでファイルを持参のこと。時に暴力的な映像やグロテスクな場面も授業で見ることがあるので、苦手な人は注意してほしい。

**評価方法**

レポートと授業中の発表およびコメント

**テキスト**

別に指定する

